

令和7年度「全国学力・学習状況調査」 ～鳴門市の結果の概要と今後の対応～

鳴門市教育委員会

1 はじめに

鳴門市教育委員会より、保護者の皆様をはじめとする市民の方々に、家庭や地域での子どもたちの学習や生活面の改善などについてご理解とご協力をいただくために、今年度の全国学力・学習状況調査結果の概要をご報告いたします。鳴門市教育大綱の基本理念「ともに学び 育ち合う 共育のまち鳴門」のもと、全ての児童生徒の学びに向かう力の育成と学力向上のために、学校教育においてはもちろん、家庭や地域とともに今後も取り組んでまいります。

なお、本調査は特定教科・内容及び特定学年の学力・学習状況調査であり、家庭や関係者とも連携し、調査結果は本市児童生徒の学力全体を評価したものではありません。

2 全国学力・学習状況調査について

(1) 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 調査実施日 令和7年4月17日（木）※中学校理科・質問については16日（水）実施校あり

(3) 調査対象とする児童生徒・調査内容

小学校第6学年児童	12校	361名	国語、算数、理科、児童質問調査
中学校第3学年生徒	5校	359名	国語、数学、理科、生徒質問調査

3 令和7年度調査の概観

今年度、小学校については、国語の平均正答率は全国・県を下回りました。算数の平均正答率は全国と同様、理科の平均正答率は県と同様でした。中学校については、国語と数学の平均正答率は全国・県を下回りました。また、理科のIRTスコアは全国・県を下回りました。

平均正答率の分布に着目すると、小学校・中学校ともに、平均正答率が低い児童生徒の割合は全国・県よりも高くなっています。中学校では、平均正答率が高い生徒の割合は全国・県よりも低くなっており、それぞれの児童生徒の現状と課題を把握し、個に応じた取組を通して、学力の定着を図ることが重要です。

評価の観点から見ると、小学校・中学校ともに「知識及び技能」についてはある程度身につけていますが、中学校では「思考力・判断力・表現力」を要する内容に課題が見られます。また小学校では、無解答率に改善が見られましたが、中学校では、記述式問題に対する無解答率が高く、課題であると考えられます。

質問調査、クロス集計から「学習習慣、学習環境等」「学習に対する興味・関心や授業の理解度等」「ICTを活用した学習状況」「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善」に課題が見られました。児童生徒が、学習習慣を身に付け、落ち着いて学べる環境づくりに努めるとともに、学習に対して興味や関心を高め、主体的・対話的に学べる授業のあり方について、研究と改善を行うことが求められます。

また、学習習慣や生活習慣の確立のために、学力と関係が深いと考えられるやり抜く力、自制心や勤勉性といった非認知能力の育成を目指して、学校と家庭、地域社会が連携し取り組んでいくことが必要です。

4 平均正答率（教科に関する調査）

(1) 平均正答率

※ 中学校理科は、IRTスコアの値

校種・教科 平均正答率 (%)	小学校			中学校		
	国語	算数	理科	国語	数学	理科
鳴門市	65	58	55	52	46	47.2
徳島県	66	59	55	53	49	49.4
全国	66.8	58.0	57.1	54.3	48.3	50.3

(2) 各教科における正答率が高い児童生徒、正答率が低い児童生徒の割合

校種・教科 児童生徒の割合 (%)		小学校			中学校	
		国語	算数	理科	国語	数学
正答率 高い*1	鳴門市	34.3	26.0	25.1	35.0	28.7
	徳島県	38.8	26.1	23.2	37.6	35.4
	全 国	41.0	25.3	27.1	39.2	33.1
正答率 低い*2	鳴門市	27.2	28.2	32.6	26.8	27.0
	徳島県	26.0	25.8	29.8	24.8	23.6
	全 国	25.4	26.3	27.8	22.5	23.8

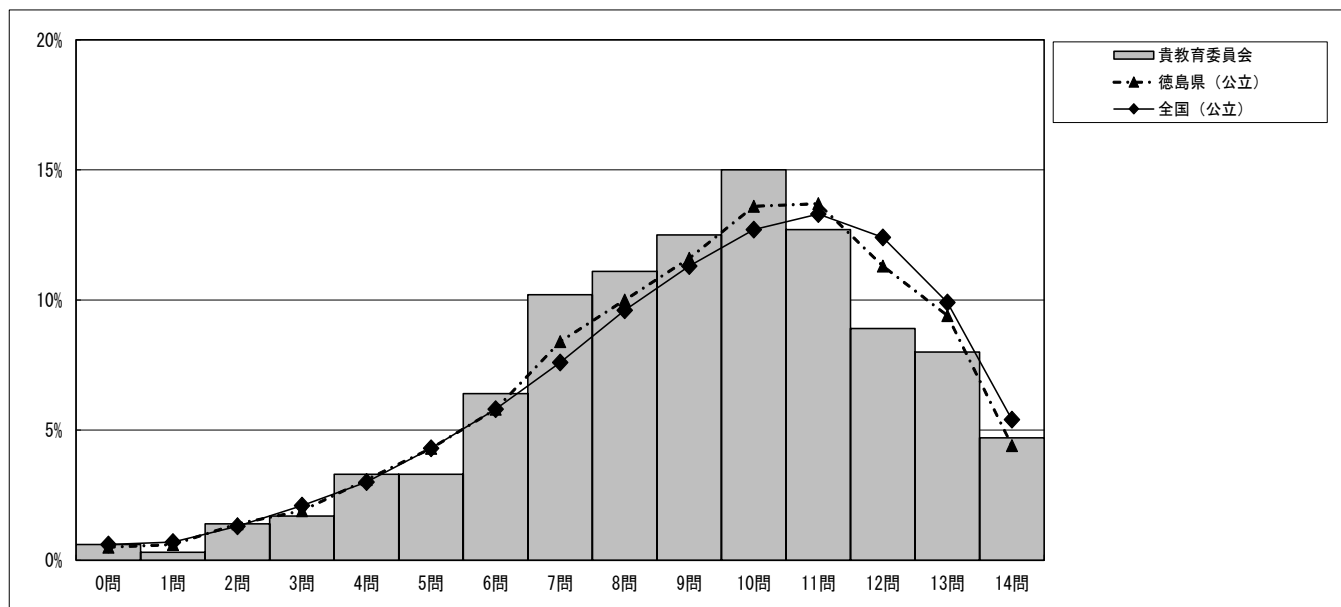
*1 正答率高い 小学校 国語 11/14 (約 79%) 以上、算数 13/16 (約 81%) 以上、理科 13/17 (約 76%) 以上
中学校 国語 9/14 (約 64 %) 以上、 数学 10/15 (約 67%) 以上

*2 正答率低い 小学校 国語 7/14 (50%) 以下、 算数 6/16 (約 38%) 以下、理科 7/17 (約 41%) 以上
中学校 国語 5/14 (約 36 %) 以下、 数学 3/15 (20%) 以下

5 教科に関する調査結果

(1) 小学校 国語

〈正答数分布グラフ〉(横軸は正答数、縦軸は児童生徒の人数の割合)



〈課題が見られた問題〉

小学校国語			平均正答率(%)		
問題番号	問題の概要（問題形式）	出題の意図	鳴門市	県	全国
1 一	【話し合いの様子】における小森さんの傍線部の発言を説明したものとして適切なものを選択する。 (選択式)	目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝え合う内容を検討することができる。	48.2	53.4	53.3
2 三	【ちらし】の二重傍線部を、【調べたこと】を基に詳しく書く。 (記述式)	目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。	56.0	58.6	61.3
3 二 (2)	【資料3】を読み、【木村さんのメモ】の空欄イに当てはまる内容として適切なものを選択する。(選択式)	事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができる。	46.0	49.5	51.3

概要

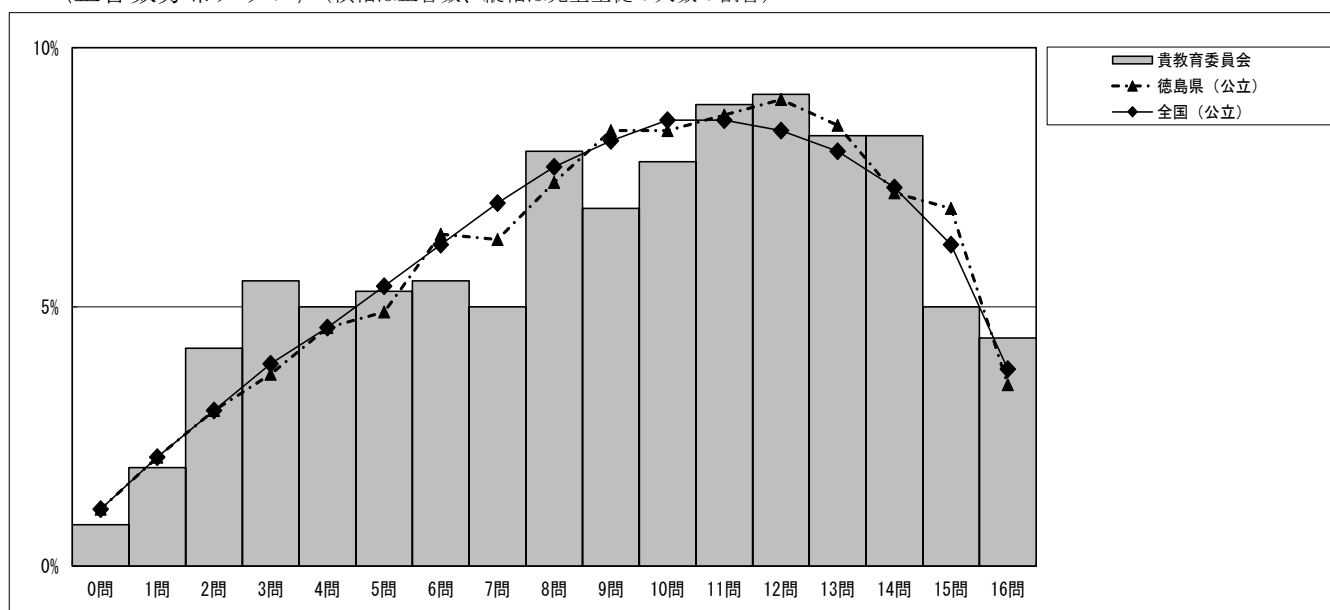
- 基礎的な知識・技能を問う問題については、正答率が高い傾向にあります。
- 情報と情報との関係付け、図などによる語句と語句との関係の表し方はある程度理解できています。
- 無解答率が、全国・県より低い傾向にあり、最後まで解答を書こうと努力することができています。
- 評価の観点の「思考・判断・表現」は全国・県の正答率を下回っており、特に「書くこと」は課題が見られます。
- 目的や意図に応じて、伝え合う内容を検討したり、考えが伝わるように書き表し方を工夫したりすることに課題があります。
- 事実と感想、意見など叙述を基に、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することに課題があります。

改善の方向

- ・低学年から、「何を・どのように書くのか」「主語は何か」を意識して、文章を読んだり書いたりできるように指導していきます。
- ・目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えがよく伝わるように、書き表し方を工夫する授業を充実させていきます。
- ・モデルとなる文章を提示したり、児童同士で書いた文章を読み合い、確かめ合う場面を設定したりすることで、児童自身が書き表し方を工夫できるようにしていきます。
- ・内容の中心となる事柄や、全体を通しての構成を捉えることができるように、書き手の考えを自分の言葉で短くまとめる活動を取り入れていきます。
- ・互いの考えを伝え合う活動、文章を読んだり書いたりする活動を、国語科はもとより全教科で、また授業外でも意図的に設定し、自分の考えや思いを表現したり、学んだことを振り返って今後に生かしたりできるようにしていきます。

(2) 小学校 算数

〈正答数分布グラフ〉（横軸は正答数、縦軸は児童生徒の人数の割合）



〈課題が見られた問題〉

小学校算数			平均正答率(%)		
問題番号	問題の概要（問題形式）	出題の意図	鳴門市	県	全国
2（1）	示された平行四辺形をかくために、コンパスの開く長さを書き、コンパスの針を刺す場所を選ぶ。 (短答式)	平行四辺形の性質を基に、コンパスを用いて平行四辺形を作図することができる。	55.4	58.7	58.3
2（3）	角をつくる二つの辺をそれぞれのばした図形の角の大きさについてわかることを選ぶ。 (選択式)	角の大きさについて理解することができる。	76.5	79.0	79.3
3（1）	0.4 + 0.05 について、整数の加法で考えるとときの共通する単位を書く。 (短答式)	小数の加法について、数の相対的な大きさを用いて、共通する単位を捉えることができる。	69.3	69.2	74.1

概要

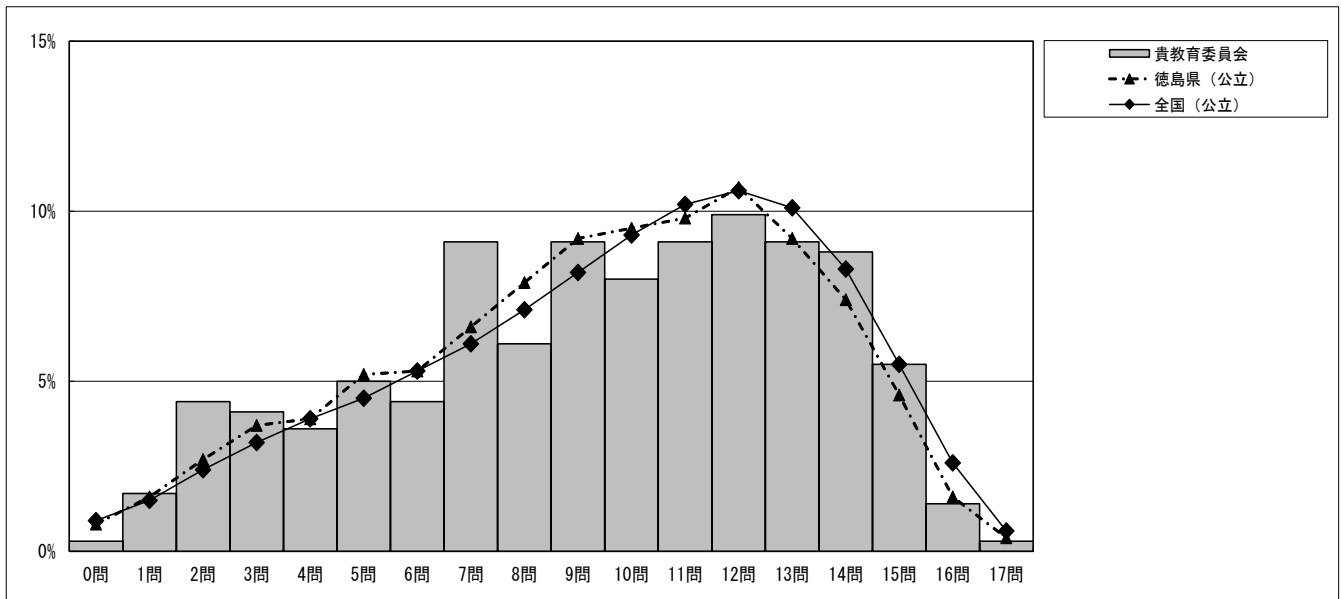
- 学習指導要領の領域「測定」「変化と関係」では、正答率が全国・県を上回っています。
- 評価の観点「思考・判断・表現」では、正答率が全国を上回っています。
- 伴って変わる二つの数量の関係に着目し、問題を解決するために必要な数量を見だし、知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述することができています。
- 学習指導要領の領域「図形」は、正答率が全国・県を下回り、課題が見られます。
- 図形を構成する要素とその関係に着目し、図形の性質や構成の仕方について考察することに課題が見られます。
- 数の表し方の仕組みや数を構成する単位に着目し、計算の仕方について統合的・発展的に考察することに課題があります。

改善の方向性

- ・図形学習では、観察や作図などの活動を大切にするとともに、活動後に、図形の性質や構成の仕方について筋道立てて考察し、説明する機会を設定する等、授業を工夫改善していきます。
- ・小数や分数の計算については、数の表し方のしくみや数を構成する単位に着目し、共通する単位を見いだすことで、既習の整数の計算に帰着できるように指導していきます。
- ・数学的な思考を身に付けるため、児童自らがめあてを考えたり、活用する既習事項を選び出す授業を工夫していきます。
- ・引き続き、答えを出すだけに終わらず、わけや求め方を、図や式、言葉で記述したり説明したりする活動を大切にしていきます。
- ・授業では、一部の児童の発言にとどまらないように、根拠を明らかにするような問い返しや、別の児童に説明する機会を設け、主体的・対話的で深い学びとなる活動を取り入れます。

(3) 小学校 理科

〈正答数分布グラフ〉（横軸は正答数、縦軸は児童生徒の人数の割合）



〈課題が見られた問題〉

小学校理科

問題番号	問題の概要（問題形式）	出題の意図	平均正答率(%)		
			鳴門市	県	全国
1（3）	【結果】や【問題に対するまとめ】から、中くらいの粒の赤玉土に水がしみ込む時間を予想し、予想した理由とともに選ぶ。 (選択式)	赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、【結果】や【問題に対するまとめ】を基に、他の条件での結果を予想して、表現することができる。	73.5	76.4	77.8
2（1）	アルミニウム、鉄、銅について、電気を通すか、磁石に引き付けられるか、それぞれの性質に当てはまるものを選ぶ。 (選択式)	身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられる物があることの知識が身に付いている。	7.7	9.2	10.6
3（4）	ヘチマの種子が発芽する条件を調べる実験において、条件を制御した解決の方法を選ぶ。 (選択式)	発芽するために必要な条件について、実験の条件を制御した解決の方法を発想し、表現することができる。	54.7	58.7	62.0

概要

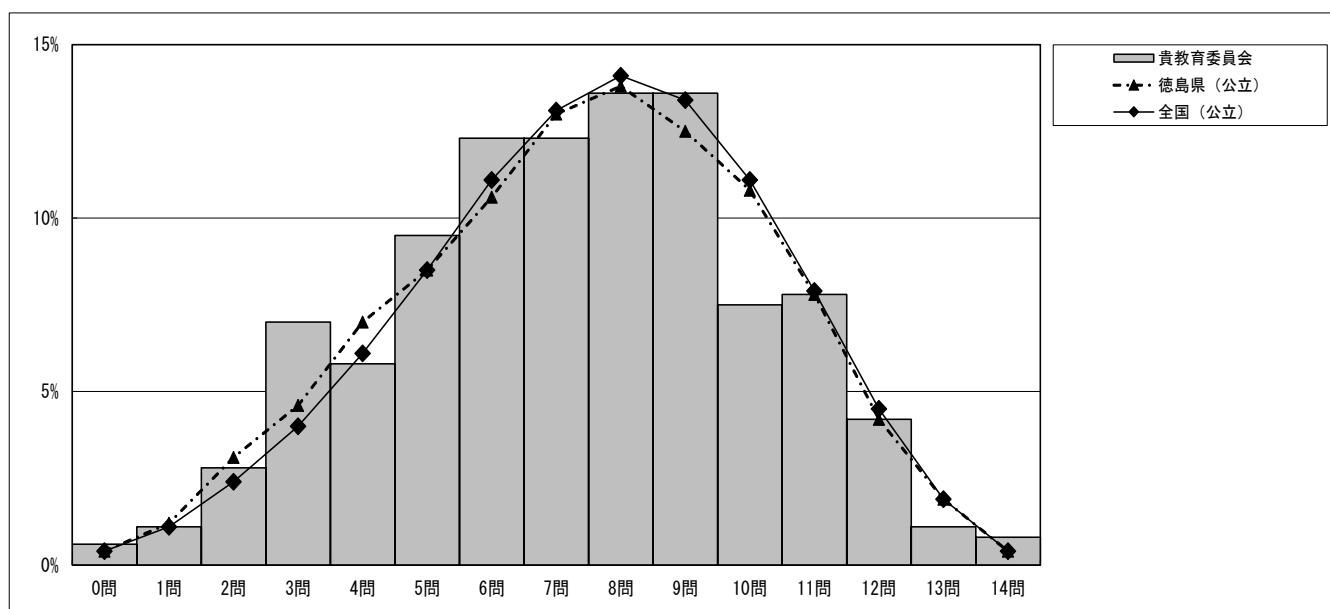
- 基礎的な知識・技能を問う問題については、ある程度理解できています。
- 無解答率が、全国・県より低い傾向にあり、調査に向かう姿勢は向上してきています。
- 学習指導要領の区分・領域のA区分「物質・エネルギー」の正答率が、全国・県を下回っています。
- 評価の観点「思考・判断・表現」の正答率が全国・県と比較して低いことから、思考を伴う形式の問題に課題が見られます。
- 表面的な知識にとどまり、実験の方法を発想する問題への正答率が低い傾向があります。

改善の方向性

- ・観察、実験の結果や結論を、図に整理したり、言葉で説明したりするなど、知識と関係付けて理解を深めることを、意識的に行っていきます。
- ・得られた結果を処理するとき、表やグラフで結果を整理しながら、条件を変えたときの数値を読み取り、それらの関係について考える活動を設定していきます。
- ・「磁石の性質」「電気の通り道」など複数の内容を生かしたものづくりの活動をする場合、つくりたいものの構想前に、それぞれの内容で習得した知識を整理してまとめる授業を展開します。
- ・予想や仮説を基に、実験に関する全ての条件を明確にした上で、どの条件を変える必要があるかを検討したり、他の条件は全て同じになっているかを確認したりすることを行っていきます。
- ・国語科を中心に育成する「読解力」に加え、実験や観察の結果や図表、データ等「非連続テキスト」を読み解く力を、全教科の中で育成します。

(4) 中学校 国語

〈正答数分布グラフ〉（横軸は正答数、縦軸は児童生徒の人数の割合）



〈課題が見られた問題〉

中学校国語			平均正答率(%)		
問題番号	問題の概要（問題形式）	出題の意図	鳴門市	県	全国
3 一	物語の始めに問いかけが示されていることについて、その効果を説明したものとして適切なものを選択する。 (選択式)	表現の効果について、根拠を明確にして考えることができる。	73.8	76.7	80.0
3 四	「一榎木の実」に書かれている場面が、「二釣の話」には書かれていないことによる効果について、自分の考えとそうように考えた理由を書く。 (記述式)	文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることができる。	9.5	13.2	17.1
4 二	手紙の下書きを見直し、修正した方がよい部分を見つけて修正し、修正した方がよいと考えた理由を書く。 (記述式)	読み手の立場に立って、語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができる。	25.6	26.3	30.1

概要

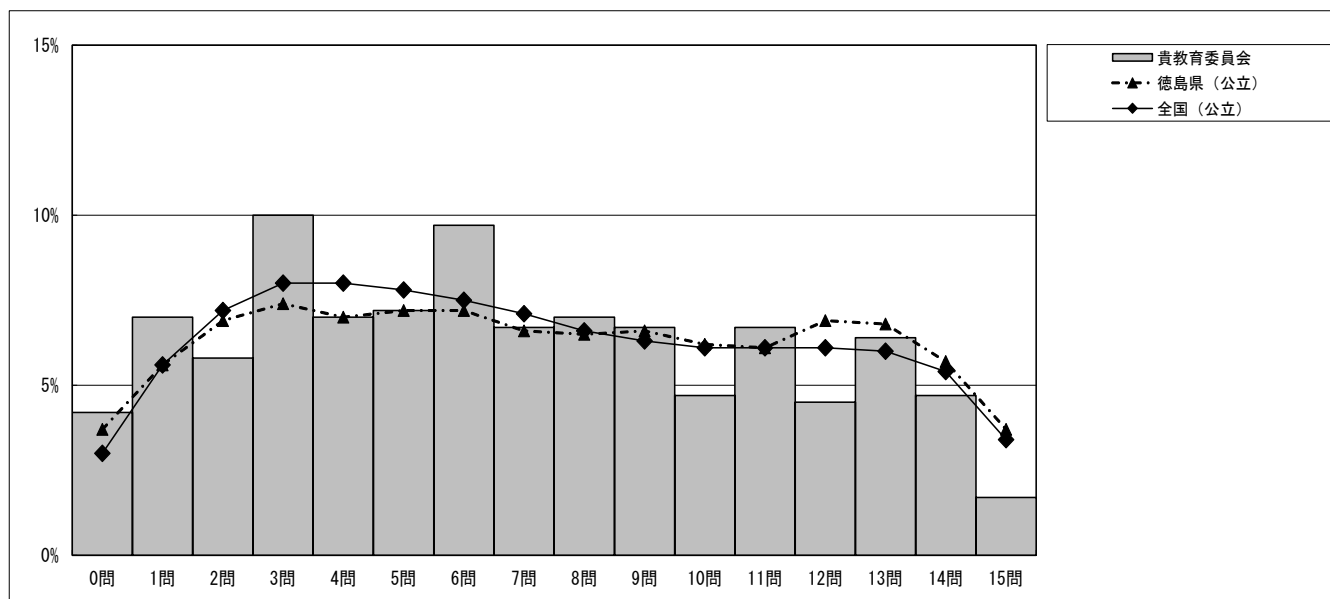
- 言葉の特徴や使い方に関する事項については、正答率が全国・県を上回っています。
- 評価の観点「知識・技能」では、正答率が全国・県を上回っています。
- 学習指導要領の内容「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」では、いずれも正答率が全国・県を下回っています。特に「読むこと」は、全国・県との正答率の差が大きくなっています。
- 評価の観点「思考・判断・表現」は、正答率が全国・県を下回り、課題が見られます。
- 「記述式」問題は正答率が低だけでなく、無解答率もかなり高くなっています。
- 「読むこと」では、表現の効果、文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることに課題が見られます。
- 「書くこと」では、読み手の立場に立って文章を整えることに課題があります。

改善の方向性

- ・場面を捉えて構成を理解することや、登場人物の心情の変化にそって文章を捉え展開を把握できるような指導を行います。
- ・ペアやグループで話し合うことを通して、その展開や構成がどのような効果につながるのかを生徒自身が実感できるようにしていきます。
- ・「書くこと」の学習指導の際には、モデル文の提示、語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、伝えたいことが伝わるように文章を整えることができるように指導していきます。
- ・行事後に書いた作文など、これまでに書いた文章を推敲する仕方を伝えていきます。観点を明確にして文章を整えたり、具体的な相手を想定して読み返し、伝えようとするものが伝わるかどうかを確かめたり、友達と読み合ったりする学習活動を取り入れていきます。
- ・互いの考えを伝え合う活動、文章を読んだり書いたりする活動を、国語科はもとより全教科で、また授業外でも意図的に設定し、自分の考えや思いを表現したり、学んだことを振り返って今後に生かしたりできるようにしていきます。

(5) 中学校 数学

〈正答数分布グラフ〉（横軸は正答数、縦軸は児童生徒の人数の割合）



〈課題が見られた問題〉

中学校数学			平均正答率(%)		
問題番号	問題の概要（問題形式）	出題の意図	鳴門市	県	全国
6（2）	3nと3n+3の和を2（3n+1）+1と表した式から、連続する二つの3の倍数の和がどんな数であることを説明する。 （記述式）	式の意味を読み取り、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明することができる。	19.5	24.8	25.7
8（2）	A駅から60.0km地点につくられる新しい駅の運賃がおよそ何円になるかを求める方法を説明する。 （記述式）	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる。	33.1	36.1	38.0
9（2）	平行四辺形ABCDの辺CB、ADを延長した直線上にBE=DFとなる点E、Fを取っても、四角形AECFは平行四辺形となることの証明を完成する。 （短答式）	統合的・発展的に考え、条件を変えた場合について、証明を評価・改善することができる。	26.5	32.8	36.3
9（3）	平行四辺形ABCDの辺BC、DAを延長した直線上にBE=DFとなる点E、Fを取り、辺ABと線分FCの交点をG、辺DCと線分AEの交点をHとしたとき、四角形AGCHが平行四辺形になることを証明する。 （記述式）	ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することができる。	22.6	29.5	33.2

概要

- 学習指導要領の領域「数と式」「図形」「関数」「データの活用」では、いずれも正答率が全国・県を下回っています。特に、「図形」は、全国・県との正答率の差が大きくなっています。
- 評価の観点の「知識・技能」「思考・判断・表現」、どちらにも課題が見られます。
- 全国・県と比較して、特に正答率が下回っている評価の観点は「思考・判断・表現」です。
- 「記述式」問題は正答率が低だけでなく、無解答率もかなり高くなっています。
- 日常生活の事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに課題が見られます。
- 整数や図形の性質で、統合的・発展的に考え、条件を変えた場合について、証明を評価・改善することに課題が見られます。また、証明したことを基に、新たに見いだした事柄を証明することにも課題が見られます。

改善の方向性

- ・AIドリルを積極的に活用し、個別最適な学びの場を増やすことにより、基礎的な知識・技能を身に付けていきます。
- ・数学と日常生活が関係している題材を、各単元に一度は取り扱うことで、数学が日常生活の問題を解決するための有効な手段であると認識させ、数学に対する興味・関心を高めていきます。
- ・解決の方法や手順を説明をする、根拠を明らかにし筋道立てて理由を説明する場面を設定することで、考え方をアウトプットしたり数学的な表現を用いてよりよい説明に練り上げたりする活動を、授業の中で意図的・計画的に取り入れます。このことで、数学的な表現や考え方を学べるようにし、生徒自身が活用できるようにしていきます。
- ・整数や図形の性質の証明を振り返り、統合的・発展的に考え、条件を変えることで新たな関係を見だし、その関係を証明する場面を授業の中で設定していきます。
- ・1人1台端末を有効に活用し、図形やグラフを動的に観察したり、データを必要に応じてヒストグラムや箱ひげ図に表したりすることで、生徒が試行錯誤する時間を確保できるように工夫します。

(6) 中学校 理科

〈課題が見られた問題〉

中学校理科			平均正答率(%)		
問題番号	問題の概要（問題形式）	出題の意図	鳴門市	県	全国
1（4）	生物1から生物4までの動画を見て、呼吸を行う生物をすべて選択する。 （選択式）	水の中の生物を観察する場面において、呼吸を行う生物について問うことで、生命を維持する働きに関する知識が概念として身に付いている。	20.5	26.3	29.7
2（1）	【考察】をより確かなものにするために必要な実験を選択し、予想される実験の結果を記述する。 （記述式）	【考察】をより確かなものにするために、音に関する知識及び技能を活用して、変える条件に着目した実験を計画し、予想される実験の結果を適切に説明できる。	7.6	14.7	14.0
9（1）	【予想】から学習した内容が反映されたAさんの【振り返り】を読み、Aさんの【予想】を判断し、選択する。 （選択式）	気圧について科学的に探究する場面において、状態変化や圧力に関する知識及び技能を基に、予想が反映された振り返りについて問うことで、探究の過程の見通しについて分析して解釈できる。	24.8	30.6	31.8

概要

- 基礎的な知識・技能を問う問題については、正答率が高い傾向にあります。
- 「記述式」の問題については、正答率が県・全国を下回り、また無解答率が高い傾向があります。
- 知識と知識を関連付けて再構築し、概念として身に付けることに課題があります。
- 化学変化について、原子や分子のモデルで表すことに課題があります。
- 身の回りの疑問から自分で課題を設定し、見通しをもって探究を進めていくことに課題があります。

改善の方向性

- ・知識と知識を関連付けて再構築し、概念として身に付けるために、「なぜ？」と「どうして？」を深く掘り下げる授業を展開します。
- ・個人やグループで観察、実験の結果から何が分かればよいのかを確認させてから観察、実験を行うなど、科学的な探究の過程を振り返り、探究の見通しをもてるような授業を展開します。
- ・観察、実験の結果を分析したり、予想や仮説を設定したりする際に、自己の考えをしっかりアウトプットする場面を多く設定した授業を展開します。
- ・探究の各過程でアウトプットした自己の考えを、共感的、批判的な視点で振り返るとともに、その変容についてもグループや学級全体で共有できる授業を展開します。
- ・様々な自然現象をモデル等を活用し可視化することで、理科における「見方・考え方」を正しく働かせることができる授業を展開します。その際、1人1台端末を有効に活用し、生徒が試行錯誤できるように工夫します。

6 児童生徒質問による調査結果

(1) 肯定的な回答の割合が、全国を上回っている項目より

小学校

番号	質問項目【 】カテゴリーは、「R 7 年度全国学力・学習状況調査報告書」 (文部科学省国立教育政策研究所) 参考	鳴門市 (%)	国 (%)	市一 国 (%)
2	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。 【基本的生活習慣等】	84.7	81.9	2.8
10	困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。 【挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感、幸福感等】	73.3	70.6	2.7
16	分からないことやワクワクし知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。 【学習習慣、学習環境等】	84.6	81.7	2.9
42	学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか。 【総合的な学習の時間、学級活動、特別の教科道徳】	84.0	80.8	3.2
61	理科の勉強は好きだ。 【学習に対する興味・関心や授業の理解度等(理科)】	82.9	80.1	2.8

中学校

番号	質問項目【 】カテゴリーは、「R 7 年度全国学力・学習状況調査報告書」 (文部科学省国立教育政策研究所) 参考	鳴門市 (%)	国 (%)	市一 国 (%)
2	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。 【基本的生活習慣等】	83.2	81.0	2.2
10	困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。 【挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感、幸福感等】	77.1	73.2	3.9
44	国語の勉強は得意ですか。 【学習に対する興味・関心や授業の理解度等(国語)】	63.8	51.4	12.4
46	国語の勉強の内容はよく分かりますか。 【学習に対する興味・関心や授業の理解度等(国語)】	80.1	77.0	3.1
47	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思いますか。 【学習に対する興味・関心や授業の理解度等(国語)】	91.7	88.3	3.4

(2) 回答率が全国を下回り、課題と考えられる項目より

小学校

番号	質問項目【 】カテゴリーは、「R 7 年度全国学力・学習状況調査報告書」 (文部科学省国立教育政策研究所) 参考	鳴門市 (%)	国 (%)	市一 国 (%)
17	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1 日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）「3 時間以上」「2 時間以上、3 時間より少ない」「1 時間以上、2 時間より少ない」と回答 【学習習慣、学習環境等】	45.9	54.0	-8.1
19	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1 日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。（学習塾で勉強をしている時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む） 「4 時間以上」「3 時間以上、4 時間より少ない」「2 時間以上、3 時間より少ない」「1 時間以上、2 時間より少ない」と回答 【学習習慣、学習環境等】	39.0	47.1	-8.1
28	5 年生までに受けた授業で、P C・タブレットなどの I C T 機器を、どの程度使用しましたか。「ほぼ毎日（複数回）」「ほぼ毎日（1 回）」「週 3 回以上」と回答 【ICT を活用した学習状況】	39.3	71.7	-32.4
29-4	あなたは自分が P C・タブレットなどの I C T 機器を使って学校のプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができますか。 【ICT を活用した学習状況】	59.6	76.7	-17.1
31	授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。 【主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況】	61.6	68.0	-7.0

中学校

番号	質問項目【 】カテゴリーは、「R 7 年度全国学力・学習状況調査報告書」 (文部科学省国立教育政策研究所) 参考	鳴門市 (%)	国 (%)	市一 国 (%)
29-4	あなたは自分が P C・タブレットなどの I C T 機器を使って学校のプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができますか。 【ICT を活用した学習状況】	57.7	76.6	-18.9
40	総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。 【総合的な学習の時間、学級活動、特別の教科道徳】	68.0	79.5	-11.5
58	数学の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていますか。 【学習に対する興味・関心や授業の理解度等（数学）】	42.0	58.6	-16.6
69	理科の授業では、自分の予想（仮説）をもとに観察や実験の計画を立てていますか。 【学習に対する興味・関心や授業の理解度等（理科）】	56.1	70.2	-14.1
70	理科の授業で、課題について観察や実験をして調べていく中で、自分や友達の学びが深まったか、あるいは、新たに調べたいことが見つかったか、振り返っていますか。 【学習に対する興味・関心や授業の理解度等（理科）】	55.2	68.4	-13.2

7 クロス集計の結果より

質問調査と平均正答率とのクロス集計では、選択肢ごとの平均正答率を比較していますが、調査数が多くないため、ごく少数の回答結果の影響を受けることもあります。このことをふまえた上で、傾向と改善の方向性を★に示しました。

網かけ部分は、各教科の平均正答率が最も高いことを表しています。

小学校

(13)	自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。	【挑戦心、達成感、規範意識、事故有用感、幸福感等】				
選択肢		児童数 (人)	児童数の 割合 (%)	平均正答率 (%)		
				国語 (14 問)	算数 (16 問)	理科 (17 問)
1	当てはまる	118	32.8	66.6	62.1	56.5
2	どちらかといえば、当てはまる	167	46.4	66.5	57.4	55.8
3	どちらかといえば、当てはまらない	60	16.7	61.2	52.0	52.0
4	当てはまらない	15	4.2	57.6	46.7	45.5

★自分と違う意見について考えることを楽しめる児童は、正答率が高くなっています。自分の考えを伝えるときに、他者の考え方を聞くことのよさや楽しさを実感できる、工夫ある授業の展開に努めます。

(24)	読書は好きですか。	【学習習慣、学習環境等】				
選択肢		児童数 (人)	児童数の 割合 (%)	平均正答率 (%)		
				国語 (14 問)	算数 (16 問)	理科 (17 問)
1	当てはまる	120	33.3	73.0	67.4	66.0
2	どちらかといえば、当てはまる	128	35.6	65.3	55.4	52.1
3	どちらかといえば、当てはまらない	58	16.1	59.4	53.2	48.8
4	当てはまらない	54	15.0	54.5	45.6	43.8

★読書が好きな児童は、正答率が高くなっています。ただ、読書好きの児童の割合は年々減少傾向にあります。家庭や関係者とも連携し、読書の楽しさや意義を、実感できるような活動を工夫していきます。

(29-4)	あなたは自分がP C・タブレットなどのI C T機器を使って学校のプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができますと思いますか。	【ICTを活用した学習状況】				
選択肢		児童数 (人)	児童数の 割合 (%)	平均正答率 (%)		
				国語 (14 問)	算数 (16 問)	理科 (17 問)
1	とてもそう思う	96	26.7	72.0	63.0	61.5
2	そう思う	119	33.1	65.6	58.6	56.5
3	あまりそう思わない	113	31.4	62.4	54.8	51.8
4	そう思わない	32	8.9	54.2	47.7	40.8

★I C T機器を使ってプレゼンテーションを作成できる児童は、正答率が高くなっています。操作技能を身に付け、文章や図、写真等を活用して作成することができるよう、指導を考えていきます。

(32)	5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。 【主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況】					
選択肢		児童数 (人)	児童数の 割合 (%)	平均正答率 (%)		
				国語 (14問)	算数 (16問)	理科 (17問)
1	当てはまる	89	24.7	70.5	67.6	61.6
2	どちらかといえば、当てはまる	192	53.3	66.0	57.5	55.1
3	どちらかといえば、当てはまらない	70	19.4	58.8	49.1	48.9
4	当てはまらない	9	2.5	50.8	27.1	32.7

★自ら考え主体的に取り組むことができる児童は、正答率が高くなっています。授業で、分からない時の学び方を教えるとともに、解決時の充実感や成功体験を重ねられるような授業を工夫していきます。

(50)	国語の授業で、目的に応じて、簡単に書いたりくわしく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して文章を書いていますか。 【学習に対する興味・関心や授業の理解度等 (国語)】					
選択肢		児童数 (人)	児童数の 割合 (%)	平均正答率 (%)		
				国語 (14問)	算数 (16問)	理科 (17問)
1	よくしている	106	29.4	69.4	63.7	58.5
2	どちらかといえば、している	188	52.2	65.0	57.3	55.2
3	あまりしていない	52	14.4	60.7	48.7	49.0
4	全くしていない	14	3.9	55.1	47.8	44.5

★自分の考えが伝わるように、工夫して文章を書くことの大切さを表している結果です。今後もあらゆる場面で書く機会とともに、モデル文の提示や互いの文章を読み合う場面を、数多く設定していきます。

中学校

(1)	朝食を毎日食べていますか。 【基本的生活習慣等】					
選択肢		生徒数 (人)	生徒数の 割合 (%)	平均正答率 (%)		平均 IRT スコア
				国語 (15問)	数学 (16問)	理科
1	している	265	73.4	53.5	47.2	487
2	どちらかといえば、している	52	14.4	51.0	44.3	454
3	あまりしていない	27	7.5	46.7	36.9	397
4	全くしていない	17	4.7	42.0	36.7	408

★朝食を毎日食べている生徒は、正答率が高くなっています。早寝・早起き・朝ご飯の重要性を生徒はもとより家庭へも伝え、学校と家庭が一体となって基本的生活習慣の定着に努めます。

(16)	分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。 【学習習慣、学習環境等】					
選択肢		生徒数 (人)	生徒数の 割合 (%)	平均正答率 (%)		平均 IRT スコア
				国語 (15問)	数学 (16問)	理科
1	できている	88	24.4	55.0	50.2	495
2	どちらかといえば、できている	174	48.2	53.2	45.8	469
3	どちらかといえば、できていない	84	23.3	47.5	40.8	461
4	できていない	14	3.9	47.0	41.1	433

★学び方を考え、工夫することができている生徒は、正答率も高くなっています。分からない時、知りたい時の学び方を教え、分かった時の充実感や成功体験を重ねられるような授業を工夫していきます。

(36)	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。 【主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況】					
選択肢		生徒数 (人)	生徒数の 割合 (%)	平均正答率 (%)		平均 IRT スコア
				国語 (15 問)	数学 (16 問)	理科
1	当てはまる	64	17.7	56.7	53.2	516
2	どちらかといえば、当てはまる	197	54.6	53.5	46.5	473
3	どちらかといえば、当てはまらない	82	22.7	47.1	39.5	445
4	当てはまらない	14	3.9	47.6	41.1	449

★振り返りの大切さを表している結果です。授業の前後や1年間など、自分自身の成長を、生徒が実感できるような振り返りや歩み、キャリア・パスポート等の在り方を工夫していきます。

(51)	国語の授業で、文章を書いた後に、読み手の立場に立って読み直し、語句の選び方や使い方、文や段落の長さ、話題などが適切かどうかを確かめて文章を整えていますか。 【学習に対する興味・関心や授業の理解度等（国語）】					
選択肢		生徒数 (人)	生徒数の 割合 (%)	平均正答率 (%)		平均 IRT スコア
				国語 (15 問)	数学 (16 問)	理科
1	当てはまる	95	26.3	57.8	50.1	495
2	どちらかといえば、当てはまる	151	41.8	53.2	47.2	473
3	どちらかといえば、当てはまらない	89	24.7	48.1	42.8	463
4	当てはまらない	21	5.8	39.1	29.5	428

★推敲について、生徒自身が難しさを感じていることが読み取れます。読み手を意識して読み直し、観点を明確にして文章を整える等、推敲の仕方を学べるように授業を工夫していきます。

(59)	文字式を用いた説明や図形の証明を読んで、かかれていることを理解することができますか。 【学習に対する興味・関心や授業の理解度等（数学）】					
選択肢		生徒数 (人)	生徒数の 割合 (%)	平均正答率 (%)		平均 IRT スコア
				国語 (15 問)	数学 (16 問)	理科
1	当てはまる	86	23.8	60.8	63.1	539
2	どちらかといえば、当てはまる	131	36.3	53.8	51.5	483
3	どちらかといえば、当てはまらない	87	24.1	46.9	33.7	435
4	当てはまらない	55	15.2	43.7	23.8	410

★説明や証明が理解できる生徒は、正答率が高くなっています。授業や家庭学習の中で、説明したりかいたりする活動を、意図的・計画的に取り入れ、理解を深め、活用できるようにしていきます。

8 今後の取組方針

学校と市教育委員会では次のことを積極的に推進します。

- 「やり抜く力」「書く力」の育成を、本市共通テーマとします。中学校においては、この2点に加え「読む力」の育成にも意識して取り組みます。各校の実態に即した具体的方策を「学力向上《焦点化シート》なると版」に記載するとともに、組織的・継続的に取り組みます。
- 本調査の調査結果を各校において分析する中で、児童生徒のつまずきがどこにあるのかを把握します。各校で、課題を各教科等の年間指導計画にも反映させ、系統性を持たせて継続的に取り組んでいけるよう、カリキュラムマネジメントを推進します。
- 「なるとうずっ子学力向上パッケージ事業」において、本市独自の特色ある教育を実施し、児童生徒の学びに向かう力や学力を育み、一人一人の無限の可能性を伸ばします。
- 児童生徒の学力向上につながる学習支援・生活支援の具体的な方法について、学力向上推進委員会、校内学力向上推進員情報交換会、市教委指導主事会で検討・共有し、市全体で取り組んでいきます。
- 児童生徒の「知識・技能」の定着、「思考力・判断力・表現力」の向上に向けて、「学級経営の充実」に努めるとともに、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させ、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に取り組みます。
- 児童生徒の課題をふまえ、若手教職員をはじめとする全教職員の研修内容の充実を図ります。
- 目標をもち、あきらめずに努力できる児童生徒を育成するためにキャリア教育をはじめ、学校の教育活動全体の中で、やり抜く力や自制心など、非認知能力の育成を図ります。
- 就学前教育・保育施設、小・中学校における連携を深め、「学びの連続性」を意識してともに取り組んでいきます。
- 家庭との連携のもと、学力向上の礎となる基本的生活習慣・学習習慣の確立を図ります。

家庭や地域では次のような取組の推進をお願いします。

- 「早寝・早起き・朝ご飯」等の基本的生活習慣の定着を図りましょう。
- 時間の使い方について、お子さんとよく話し合い、スマートフォンやゲームの使用時間、学習や読書、運動時間を決定し、望ましい学習習慣、生活習慣の定着を図りましょう。
- 地域行事やボランティア活動への参加を促しましょう。
- 地域や社会のニュースについて話す機会を増やしましょう。
- 夢や目標について話し合い、物事をあきらめず、根気よく最後まで取り組めるような言葉かけをしましょう。
- お子さんとの会話を大切にしましょう。学校での出来事や友達のこと、興味をもっていることなどを語り合い、学校や家庭での生活状況の把握に努めましょう。
- 学校行事等に積極的に参加するなど、学校との連携を図りましょう。